

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年8月14日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子せと幼稚園

当園では学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

教育方針：「笑顔いっぱいの子せと幼稚園！！」
教育目標：1. つよく・かしこく・たくましい子どもの育成。
2. 感性豊かなおもいやりのある子どもの育成。
望ましい子どもの姿：「自分の力で、仲良く、元気に、もうひと頑張りする子。」

2. 本年度重点目標・計画

子ども・保護者・教職員全員が笑顔で過ごせる”チームせと”をめざす。
・教育課程の改善：行事や教育・保育をその都度検討・協議し、幼稚園教育要領が示す10の姿も踏まえた保育計画に見直しを図り、環境設定を行う。実践を大切にし、子どもの成長を促す援助方法を探る。放送教育を取り入れ、教育・保育の質の向上を図る。
・職員の資質向上：職員間の話し合いの充実を計るため、職員会のあり方を研究する。公開保育の実施と職員会や学年会等を通しての情報交換を活発に行い、子ども理解やスキルアップを図る。
・特別支援教育の充実：関係機関との関係や教職員間の連携を深めながら支援の必要な子どもに寄り添える指導・支援を行う。
・安全管理体制の強化：アレルギー対応を含む安全で安心の給食環境を作る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・教育・保育活動の「反省、振り返り、評価」を重視した教育・保育実践に務め、子どもが笑顔で主体的に成長することを目指した。その結果、「反省、振り返り、評価」が、日々の教育・保育実践に定着するようになり、主体的な活動に取り組む園児の姿が多く見受けられるようになってきた。
2	職員の資質向上(研修・情報共有等)	B	・園の特色を生かした保育環境と保育内容を様々な角度から提案、議論するため、“語り合い”の時間を設けた。誰でも活発に意見が出せるよう工夫することで、新しいアイデアや情報を試してみようというチャレンジする姿勢が生まれ、保育の発展につながっている。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	A	・特別な支援のいる園児一人一人の理解に努め、その子にあった対応や援助を探り出している。そして、全職員が共通理解を図ったうえで、協力しての指導・援助ができています。また、発育・発達で困ったことがあれば、その都度、全職員で話し合いをもつと共に関係機関とも連携を取り解決策を模索するように務めています。
4	安全管理体制の強化	B	・アレルギー対応では、保護者と連携を取りながら可能な限りの個別対応を行っている。また、配膳を工夫したり担任、副担任の複数の目でチェックをしたりすることで、安全な給食の提供ができる体制をつくってきた。

評価の基準 (A: 十分達成されている。 B: 達成されている。 C: 取組まれているが、成果が十分でない。 D: 取り組みが不十分である。)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切にされた質の高い教育・保育を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A: 十分達成されている。 B: 達成されている。 C: 取組まれているが、成果が十分でない。 D: 取り組みが不十分である。)

5. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	<p>“語り合い”の効果が始め、職員のより良い保育、環境構成の工夫への意識が高まっている。これが負担にならないように続けていけるようにする。</p> <p>幼稚園部、保育園部の公開保育を核にし、教育実践のねらいに対する観点で研究協議を行い、保育者個々のスキルアップを図っていく。今後も、教職員のスキルアップのために研修交流と情報共有を大切にしていきたい。</p> <p>担任中心の子ども把握や理解が多いので、教職員間の情報交換を活発に行う必要がある。担任だけでなく、全職員がすべての子どもに係わり、把握や理解するように務める。また、特別な配慮を必要とする乳幼児の情報も全職員で共有し、共通理解を深めていく。</p> <p>慣れや不注意から対応がなざりにならないよう常に高い意識をもって、安全な給食環境を作るように心がける。また、地震発生時の対応も常に意識し、園内で一つの命も失わない行動がとれるように心がける。</p>

6. 学校関係者の評価

<評議員／株式会社メディア・エーシー取締役会長>

「せと幼稚園」を訪れていつも感心するのは教職員の方々が元気な笑顔で子供たちに接していることです。

わたしたち民間の会社でも社員が笑顔で働ける環境づくりがガバナンスの基本だと思います。

きっと皆さんがしっかりとしたコミュニケーションをとりながら意識の共有をされていると感じました。

子供たちが家族以外で最初に接すると思われる教職員の皆さんの元気あふれる環境と笑顔をこれからも大切にしていきたいと思います。

<横浜新町小学校長>

地域の教育振興及び教育実践を大切に子どもたちの成長を促す支援や教育・保育の質の向上に日々ご尽力くださりありがとうございます。

子どもたちの笑顔・主体性を育むために、PDCA サイクルを実践し、教育活動を推進していることは素晴らしいことです。これまで以上に主体的に取り組む子どもたちが増えていくことを期待しています。

また、「チームせと」として、担任だけでなく、全職員が全ての子どもたちに係り、情報を共有していくことはとても大切なことだと考えます。子どもたちを中心に据えた、よりきめの細かい教育・保育実践が進められることを期待しています。

<あたご幼稚園長>

先生方が積極的に語り合い、日常的に多くを振り返る中で、子ども一人一人を把握してこられたことが、しっかりと読み取ることができました。この「保育を語り合う」ということは、私たちの職務にとって、最も重要な軸になりえると思っています。それによって多面的な共通理解がなされ、やがては、誰にどの先生が関わっても、同じベクトルで対応できるという、素晴らしい軸が構築されます。貴園が重点とされてこられた・資質向上も・特別支援教育の充実も・安全管理体制も、この「語り合い」が根幹となっていたのではないかと感じました。また、この営みそのものが楽しく、先生方にとって、かけがえのない時間になっていたのではないかと、現場の雰囲気まで容易に推察できた報告書でした。

重点目標である、『子ども・保護者・教職員全員が笑顔ですごせるチームせと』は、この年、こうして成し遂げられたという実績を確かに感じることができました。素晴らしい足跡でした。本当にお疲れ様でした。

<令和4年度後援会長>

「子どもたちの笑顔のために」という理念を園と保護者で共有し、それに向かいお互いが一丸となって様々な行事に取り組むことが出来ました。また、保護者の要望等に対しては、園としての立場・理念を大切にしつつ、柔軟そして迅速に対応していただきました。

情報の共有という面ではSNS やコードモンを活用し、子どもたちの様子や園での取り組みを保護者のみならず、外部の方にも、発信出来ていると思います。

さらに今年度は、地域の子育て支援センターにて、未就学の保護者の方に園の魅力を伝えることができました。地域とのつながりは、この先とても大切になってくるので、この取り組みを続けて欲しいです。